



をめぐるパブリック・ヒストリー

『中村弥六 未来への遺産』

映像資料



2024.
11/16 (土)
13:30~17:00

会場

伊那市立高遠中学校 多目的ホール
長野県伊那市高遠町東高遠232

参加費／無料

■お申込み・お問合せ 伊那市立高遠町歴史博物館

〒396-0213 長野県伊那市高遠町東高遠457

TEL 0265-94-4444 e-mail t-rhk@inacity.jp

【主 催】中村弥六研究会（代表：高綱博文 日本大学名誉教授）

科学研究費助成金基盤研究（C）：研究課題「グローバルヒストリーの中のアジア主義者中村弥六」（研究代表：趙軍 千葉商科大学名誉教授）

【共 催】伊那市教育委員会 【後 援】上伊那郷土研究会／高遠郷土研究会／テレビ信州 【協 力】伊那市創造館／高遠町歴史博物館／高遠町図書館

シンポジウムの目的

中村弥六研究会(2017年4月設立)は、日本学術振興会の科学研究費の助成を受けて明治期の政治家にして日本林学の父と言われる中村弥六(1854-1929年)について、中村弥六の出身地(伊那市高遠町)にある高遠町歴史博物館の協力を得て関係史料を調査研究している。2022年10月には私たちの研究成果の一端を公開するために高遠町においてシンポジウム「甦る中村弥六 布引丸事件」を開催した。今回はそれに引き続き本年11月16日にシンポジウム「映像資料『中村弥六 未来への遺産』をめぐるパブリック・ヒストリー」を開催する。

今回のテーマで取り上げる「映像資料『中村弥六 未来への遺産〜フィリピン独立100年目の真実』(テレビ信州制作)は、中村弥六のご親族より入手したものであり、私たちは彼の実像を追求する一方で中村弥六のイメージがどのように形成されてきたのかに関心を抱き研究しているが、それを知る上で貴重な歴史資料である。

私たちは高遠町の郷土史家(故森下正夫氏)を中心として創られた映像資料『中村弥六 未来への遺産』はこのようなパブリック・ヒストリーの先駆的な歴史実践ではないかと注目するものであり、それを今回のシンポジウムにおいて高遠町の人々の協力を得て検証することを通じて私たちの中村弥六研究もパブリック・ヒストリーとして更なる発展の途を模索するものである。



● プログラム ●

開催趣旨挨拶 高綱 博文 (中村弥六研究会代表・日本大学名誉教授)

司会 円谷 裕美子・木村 実季 (中村弥六研究会事務局)

映像上映 「中村弥六 未来への遺産 〜フィリピン独立100年目の真実」

解説 「『中村弥六 未来への遺産』をプロデュースして」

篠原 弘和 (テレビ信州報道制作局長)

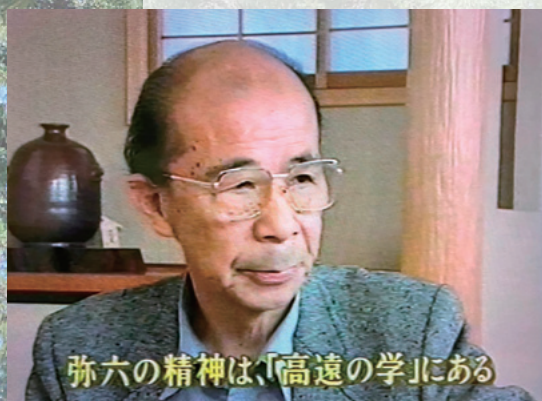
報告① 「高遠の歴史家たち」福澤 浩之 (高遠町歴史博物館学芸員)

報告② 「中村弥六をめぐる〈郷土の論理〉」佐野 実 (国士館大学准教授)

報告③ 「『中村弥六 未来の遺産』映像の分析」金山 泰志 (横浜市立大学准教授)

コメント 「映像資料とパブリック・ヒストリー」趙 軍 (千葉商科大学名誉教授)

閉会挨拶 塚田 博之 (高遠町歴史博物館館長)



弥六の精神は「高遠の学」にある

